仙方
千寿
綿溫石
定

へ13
2946
147

147
へ13
2946
147

仙方長壽綿温石

新製上品　一箱價三匁

別して上品なるものにて…綿ハ…其外…ものによく…

報條

需に應じて令據

式亭三馬述

式亭

這箇長壽温濟綿ハ、俗に綿温石の儀ハ予が先祖一子相傳の秘授なり。嘘とおやしさバ勿論中華名医傳方とて名も偷ずに此温綿の来由を尋ぬるに、本草や弁香に功能を述、内科外科古方後世にも仲景思邈が声色を知る彼野夫の良医より密に授る妙剤ゆゑ、常にこの薬綿を懐にし、おへそのうへにあてゝ置く時は忽ち薬力五臓にめぐり、寒風秋雨に犯されず、熱ほど所謂「うぢけさむがり坊」方精或ハ巨燵に背あぶりて竈の抱火鉢の無精者を…倶にさへ…神の…定りの

自讃[illegible]古今未嘗有稀代不
思議の霊験○世に行る箱入温石のかるく[illegible]温温
石の衣類とぞ[illegible]其功能と爭ふしるべし温石なんで大病の
元をまもるんや彼今の豚汁湯豆腐の力と借く顔[illegible]玉の汗とる
らし風呂[illegible]湯の勢ひ[illegible]うんと去のぐ[illegible]を時小寒冷のき
びもあるべし天に銭を取ぬ[illegible]ぬも世行の雨霜霜雪大ひ不
虚弱の人と傷る山温綿の奇効[illegible]の腎水を傷
[illegible]とげまじ邪湿と去りて食[illegible]瘡氣と持ひ脾胃を健ふし
上衛とりげ労熱とさるもと歳を老人の筋骨をはち七又小児の
痛免と去り婦人の血と補ひ其外出来合丈夫の[illegible]効能[illegible]を
[illegible]なしべす紙に墨[illegible]し正直なる主[illegible]とをしさば

中風 痰飲 積聚 咳嗽 腹痛 疝氣 瘧疾 淋疾
痔 偏脱 肝ヤに及ぶず冷よる殺る痛のふく四百四病ハ[illegible]も更八百
八町のいろ[illegible]

花嫁日蓮上人経の綿と願[illegible]牛のごく重痛[illegible]
まりて戯場の綿の[illegible]腹温[illegible]
[illegible]先温なる[illegible]
[illegible]八居[illegible]木乃伊[illegible]
金粉自然[illegible]蓮土周代破輪王の[illegible]容石妃の
になり錦の柱でも抱ねばなら[illegible]程[illegible]の時炭周と生ず
女中ぐ[illegible]
汗[illegible]
チト情の[illegible]

此方[illegible]世り賣一切出し[illegible]取次所[illegible]中[illegible]

本家製法所
江戸大傳馬町三丁目南新道
藤田金六製

此本と見[illegible]
二丁ハえ[illegible]

取次所 山下町 萬屋太治右衛門
仲町 伏見屋善六

俳優節用狂言袋
三馬伯
文入全一冊
仙方
長壽
綿温石
本
萬
太治郎門

名代ひやうぢんちうふるいう
そやうるさ八人ま一のむまあい
いーぢんうーのけいうーしを
ちうこうれんぢんのみけい
はしとれうしとそれくの
ぎうぐまうぐもちへいれて
まちけいーわ　まうこそ
うーかーこのちや法
くへいぢるゆそ
ことさそせんか
いよもうーみぐ
ろうくこものぜこ
ちぐひうんぢも
ようどう八人
けいーやと
名代ふうろそ
町中の大ひやう
ちんざーさくの
ひまもうく
そこでも
うでを
八人けいーや
くーとちらの
かうるゆあび
さーーーく二ゆやは
らうけでおうまを
ぎうーけ

八人のぜうう
いまよゆぎーろそ
ぢらみんるうす
八人けいのかくやぢ
いんうーたちう
ぢーー
こんぢさんけいくが
まーふーとゆぢでの
うーの上とり

さあ八
今のうとゆ
八人けいのと
いんいのは
けひうとうとう
ちーまうし
とうやゆうとゆ
うそらーき
あぐうろあそけ

つぢあいぢーまぢ
せうぐーの
八人ゆ土ぢいで
ぢうまけ

ぼちんいのあきうん
ちーろとうくとぢいく
アレサ　それーやア
きちんさんのうびぢ
こぢーかうそゆうーわいる

撰取懲目録

新浄瑠璃

一夜のよちやきいよりいうんのその
ゑんぎをそなへんでんかをついやくと
ゑづむ者といとひせ絲びひろうと
水ふうりのぐろうるべりやうんと志ゆう
ぞうせうとしぶいみてみてをろをのるニ十ニうを
らちやうをのつをひとろを八人が大びつの
ろうまくふぜひをそびきついるわくまろびひろ
小ろうとかをみをびナ志らんちろしろのうんまう
をろうびとくあうツンツンくテンくツンテン

おちよよを
ちろう信十郎
おきん 勝之丞
おちや 徳之丞
おむめ 条之丞
おセ 吉三郎
おなめ 久まろ

〆同行十六人道行

拾二之

八天狗の名へいれもおぼへられのう

大てんぐ小天ぐ このてんぐ その天ぐ 山まてんぐ かいまんてんぐ てんぐ ちろてろてんぐ ひつてんぐ おとく いろくの あかわの めずら あんくとまぐ さんべい

さてはまでいの たけはこあり(?)の つまあるのはおそろしくてろあがん

よしざとしめてうびあ わくぞの身 つくろい あむわと ざめつと いやこゑも ひとりまへ 二人 にて こゑのて 此だ三千 三べんもそふかうよと ところこゝろおまへさくと ころとうけおつてみわぬひとつの ちらおんさむこゝにゆう終を引つれ大ぜいのおんなおんなどをさせ ひろきあおつて走行ふかつてうおんぢうちう終わろしの おれさうらみかきしふさうらひけてこのきとやくそのそ 大ぜいのそねてやまさうらぎさまとろでのおんなゆう さてろしてのむまあそりのいまうされともせ付せうの わくあんのうれつてひあわがひゑくへうらけりのう ひとりの邪魅あうされともかぞくることいさくろ ひそあふさくまうのまうろてまことあんばかくの あうとこうふわうまいぞくきよくとまるもさし ござあるはゆわぞ身へきやむもあうかゞざのうらふ とそちてんぷくへくごよのおんさへきろうろおひめんを 八ちんぐといへるもののかくれたるのしがいまへ二まる あげうせゐるもと仙人がうまなりてハツのかららのむまあふむうひ

一とゆうてとあわせあむきゆうらうんの ききやくしハちんがらつしくとうろく けなげむとあもとぐさズイイしてハ人又 まうんしわわざましかりれろあそびあう

三馬作
仙方長寿綿温石
目
円
度